

2024年 1 月 19 日

神奈川県教育委員会 殿

こんな学習指導要領はイライナイ親と教師の会

佐々木 由美子

春暖の候、貴職におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素、市の教育行政にご尽力を賜っておりますこと厚くお礼申し上げます。

私たちは、学習指導要領の改訂を機に教科書についての調査を多年にわたり継続しているグループです。子どもたちが生きる喜びを実感できる学校のありようを願って活動してまいりました。

一昨年から戦争の時代とでもいうような世界の情勢が顕わになっています。ウクライナとロシア、イスラエルとパレスチナの惨たらしい状況がメディアを通して届けられていながら、世界が有効な停戦への動きを見せることなく、私たちは焦燥にかられながら自らの無力さを痛感するばかりです。日本の政権は、米国に追従して台湾有事を煽り、軍事費総額5年で43兆円として、南西諸島への自衛隊配置を着々と進めています。普天間基地の辺野古移設もなりふり構わず行おうとしています。日本国憲法の平和主義はいついどこへ行ったのでしょうか。閣議決定された安保3文書は、民主主義を軽視した政権与党の暴挙です。日本は、国会の議論も国民の熟議もなく「反撃能力」を保有する軍隊を持つ国へと実質上の改憲をしてしまったとしか思わざるを得ません。

国の教育への統制も学習指導要領を通して、着々と進められています。道徳教育の教科化は、戦前の教育の復活を目指す日本会議を中心とした勢力の意思そのものです。そして企業に都合のいい人材作りの手立てとなり、ひいては黙って戦場に赴く兵士作りの手段となることでしょう。そして教育のICT化は、市場としての学校を作り出し、教育の格差をますます大きなものにしつつあります。

そんな学校に行けなくなった子どもたちは、2022年度で29万9千人にも及びます。そして、精神疾患で休職の教員は6539人です。この数字は、もはや日本の学校が機能不全に陥っていることを表してはいないでしょうか。学校が子どもの健全な学びの場でなくなっていることを、私たち大人は理解しなければなりません。子どもの時間を取り上げて心身を締め付け、教員に無制限の労働を強制して壊す学校が今の日本の学校の姿なのです。

人として自然な成長を保障する学校を求めてやみません。国連人権委員会は、2022年日本における思想及び良心の自由の制限についての報告に懸念をもって留意するとしています。国歌を歌わない教員への処分だけでなく、式典の間、児童・生徒らに起立を強いる力が加えられているとの申立てを懸念するとしています。

貴教育委員会において、国家が要請する教育ではなく、子どもの成長を見据え、子どもと教員の心身の健康に配慮した地域のニーズに応える教育が行われることを切に願うものです。貴職におかれましては以上の趣旨をご理解いただき、下記の要望にお答えいただきますよう、よろしくお願いいたします。

記

- 1, 卒業式・入学式において、児童・生徒・親・地域住民・教職員に「日の丸」「君が代」の掲揚・斉唱を強制しないこと。
- 2, 元号使用を強制・強要しないこと。各種提出物・卒業証書等
- 3, 君が代斉唱時における教職員の不起立等の調査・報告をしないこと。
- 4, 教育委員会は現憲法の要請する「思想信条および良心の自由」を保障すること。

以上

なお、回答は 2月22日までに文書にてお願いします。

